

## 東日本大震災

## 援助隊、被災地で始動

## 募金箱設置 県内でも支援の輪

深刻な被害が出ている東日本大震災で13日、県内から派遣された緊急消防援助隊や医療チームは被災地で本格的な救助や診療の活動を続けた。水や食料が不足している被災地向けに救援物資を送るなど支援の輪が県内でも広がり、募金箱の設置も相次いでいる。

【石川勝義、五十嵐朋子】

県危機管理課によると、消防防災ヘリ「きび」は12日から宮城県石巻市や塩釜市で活動を開始。13日も救助や

救急任務に当たったほか、物資を搬送。県内14消防本部が派遣した緊急消防救助隊(35隊132人)は同日夕、

宮城県総合運動公園(利府町)に到着した。公園を拠点に近隣の塩釜市で救助活動などに当たる予定という。

入り仙台市を指している。また、新見、瀬戸内、笠岡の3市も13日に給水車を派遣した。陸上自衛隊三軒屋駐屯地(北区)の災害派遣部隊も被災現場に向かっているという。

国際医療救援団体

出発した。

「AMDA」(本部・北区)は第1次派遣の医療チームが12日に仙台市に入り、13日から現地でスタッフの受け入れ態勢を整え始めた。また同日には菅波茂代表ら医療スタッフ4人も被災地に向けて



東北の被災地に向けて出発する笠岡市の給水車  
—同市上下水道部で

県内5病院が派遣した救急医療専門チーム(DMAT)のうち4チームは12日午前からいわて花巻空港(岩手県花巻市)で搬送患者の応急処置を行っている。岡山赤十字病院の救護班は13日、福島県内の避難所を巡回して診療を始めた。安全が確認された避難場所を巡回し、健康相談や診療にあたっている。

県内6市の給水車は13日夕現在、福島県に